The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	GLOCOLブックレット06　目次
Author(s)	
Citation	GLOCOLブックレット. 2011, 6
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/48290
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

GLOCOLブックレットの創刊にさいして

「GLOCOLブックレット」は、大阪大学グローバルコラボレーションセンター（以下、GLOCOL）が企画・実施している、教育、研究、実践の３領域にわたる活動の成果を大阪大学内外に知らしめるために創刊されました。2007年４月に開設されたGLOCOLは、大阪外国語大学との統合後の新大阪大学における新たな教育理念を具現化するため、教育プログラムの改革をおこなうことを第一の使命としています。

グローバル化のなかで、現代の世界は、紛争、貧困、文化の衝突、感染症、環境破壊といったさまざまな問題に直面しています。経済的繁栄のなかで、他の国や地域の問題は「他人事」ですましてきた日本という国の住民も、ナショナルな枠組みのなかで安住することはもはや困難になっています。現在の総合大学に課されているのは、こうした世界の状況を適切に理解し、その改善や解決に向けて真の「国際性」（intercultural communicability）をもって主体的に行動することのできる人材を養成することであると考えます。この責務を実現するためには、従来の学部・研究科の枠組みを超えた連携（コラボレーション）が必要です。連携のパートナーには、学外・国外の研究機関、開発援助機関や市民団体も含まれます。GLOCOLの役割は、こうした連携の媒介者兼牽引者となることです。

先端的な教育プラグラムの開発は、先端的な研究の裏打ちがあってはじめて可能になるものです。GLOCOLが、「人間の安全保障」と「多文化共生」を二つの柱とする研究の推進に力点を置いているのはそのためです。また、GLOCOLにおける教育研究のプロジェクトは、現代世界の動態と深く関連しているがゆえに、学生と教員の双方は必然的に「現実とのかかわり方」の模索を求められることになります。それゆえに、GLOCOLが教育・研究・実践の「三位一体」をスローガンにしているのです。

「GLOCOLブックレット」は、シンポジウム、ワークショップ、研究プロジェクト、教育プログラムの開発、実践とのかかわりなど、GLOCOLのさまざまな事業を報告するメディアです。皆様のご理解とご支援をお願いするしだいです。

2009年２月

大阪大学グローバルコラボレーションセンター
センター長

栗本英世

GLOCOL ブックレット
GLOCOL BOOKLET 06

もう一つの日本語で語る多文化共生社会

コミュニケーションツールとしての「やさしい日本語」

Easy Japanese as Communication Tool: Towards a New Multiculturalism in Japan

宮原 曉［編］

目次

はじめに ―― 003

I 多文化共生社会に求められる日本語 ―― 宮原 曉 ―― 007

II 「やさしい日本語」からみる多文化共生 ―― 宮原 曉 ―― 043

III 日本語教育とやさしい日本語 ―― 栗原由加 ―― 079

中国・外交学院の事例から ―― 福田亜紀 ―― 080

フィリピンの事例から ―― 尾上智子 ―― 084

結びにかえて ―― 090